



086-245-4343
相談電話 24カンイツデモ シミジミ

岡山からの電話



(写真 岡山市中区)

仁王門

斎藤 恵子

男は仁王門の前に立つ
五百年前も別の
男が立っていただろうと思う

ひかりがしずかに動いている
門の向こうのひかりと混ざり合っている
声のように響いてくる

五百年の間
門の前に立った男は数え切れない
みな偶然たどりついたので
戦いがあった
いろいろな悪いことがあった
偶然今生きている

ここにたどりついたので偶然だ
偶然とは必然ではないか
ここにたどりつくよりほかは
なかったのだと思う

一すじ風が吹く
門をくぐれば
新しい物語が始まる

愛せなかった日々、愛していく日々

～読み合いをとおして～

皆さんこんにちは、村中李衣です。私は絵本の仕事を多くしています。人の耳で人の声を愛する形として受け入れたときに絵本の力が発揮され、私の場合は絵本の読み合いということです。たぶん「いのちの電話」の声が持っている、人に繋がることをあきらめないことを伝えていく営みと繋がるのではないかと思います。今日はここに来ました。



村中 李衣氏

「うんこ日記」

では、最初に私の絵本、「うんこ日記」という本です。

主人公のしょうへいは自分の描いた「う・ん・こ」の絵日記を、日曜日の夕方父さんが一週間の旅から帰ってきてお風呂から上がったとき見せました。

お父さんが帰ってくると母さんと子どもは玄関まで迎えに出て。お父さんが帰ってくるうれしさが靴を片づけているところにあります。見て下さい

今お父さんはビールをまだ1杯目で口をつけてないところで、息子が差し出した「うんこ日記」を読み始めたということなんです。

ある小学生のお姉ちゃんが、この絵を見て「あ、このお父さんがなかなか優しいじゃん」と言いました。お父さんが子どもの絵を汚さないように肘を上げて記念に名前を書いてくれたんだなあというのが分かってね、それは、そのお姉ちゃんが自分の絵かお習字に花丸をつけてもらっている時、それを汚さないように褒めてもらった親か先生の姿を嬉しく思った、自分が愛された記憶が物語を読む力にたぶんなっているんですね。ああそんな風に読めるのか、私たちは、なかなかそんな風に読めないなあと思いました。

絵本って、目で読むということを伝えられるようにできているんですね。簡単ですけれど。

愛された記憶を

私がこの本を書くのは違う形の家族と出会ったことがきっかけになったんです。児童養護施設で、お正月とお盆には家に帰る子どもが戻ってくると傷ついて荒れてる、その子どもたちをフォローするような絵本を読むという時間があるんです。

今年の夏お盆が終わって帰ってくる男の子を絵本を読む部屋で待ってたんですね。そしたら男の子が普通はもじもじして入ってくるのに、パーンとドアを開けて選んだのは「おぼけのバーバパパ」です。

読み終わったときに白い模造紙を用意したら、その子が、「フーンフーン」と鼻歌を歌いながら描いた。「お化け？」って聞いたら「うんこに決まってる」。私は言葉を無くしてしまって、頭が空っぽで、「（うんこ）中に何が入ってるん？」彼がニヤッと笑って「教えちゃろか」。最初に「フフフーン」と茶色でハンバーグ。真中を黄色に目玉焼きかチーズが乗ってるハンバーグ。次に赤いニンジングラッセ。あとオレンジ色でスパゲッティ。緑色でほうれん草のソテー。イカのリングフライ、フライドポテトも。私はここまで見た時、ああうちに帰って食べたこのご飯は外食したんだなあ、お母さんのご飯食べなかったんだなあ、ただそう思って聞いていたんです。

彼はこれを描いた後、急に、まっさらなクレパスを見つけレモンイエローのそれを使って描き始めた。「コンペイトウ？」「ばかじゃなあ、星に決まっちゃーや」。彼は降るほど星を描きました。その後、真中に緑色のクレパスで大きく二つ窓を描いた。そこに笑ってる母さんの顔、隣に笑ってる自分の顔を描きました。

子どもが窓をいっぱい開いた絵を描く時は、自分の心のありどころを外に向けても良いという時です。だから、その心の窓が全部開いて、笑ってる二つの顔を見たときに、二人は星がいっぱい降る夜に、一緒に行ったんだなあ。星がいっぱい降る所が彼のころにしっかり残っているんだなあ。二人で食べに行った、母さんがここに居ます、僕がここに居ます、誰に見せても恥ずかしくない幸福な記憶なんだろう、その記憶が胸にずっと残っていて、その物語を今私に見せてくれているんだなあ、きっかけになったのが「バーバパパ」だったんだなあと思ったんですね。

私は子どもの内側に生まれている物語をしっかりと見たいなあ

て思ったんですね。子どもは言葉の内側で、こんな世界が広がっているのかもしれないなああって思った時に、これを本当に覚えておこうと思ったんですね。

でもなんでうんこに描いたのって疑問が残りますよね。後で聞いたら施設に入ってくる前、お祖母ちゃんは夜パツンとうんこを出す。一日をしっかりと生き切っているというのを見てあげたかったので、必ずトイレと一緒に見て、で、さよならと言って流していたんですって。ちゃんとお祖母ちゃんの記録があるんですね。だから彼にとって、ウンチの絵を描くっていうのは、僕がここに在るという精一杯の存在証明だったんです。だからこの絵を描いたんだなあということが後で分かりました。

いろんなことがあって、子どもたちの幸福の記憶を何か絵本で描きたいという話をしたら、できたのがさっきの絵本です。絵本が描かれている時に、その奥にはその人の声や目や五感を通してこの世界の愛し方を何とか伝えたいと思っていることと、それを聞いてくれる子供や、大人に読む時もありますが、その出会いが生まれるということ、このお話をさせていただきました。

ウソの世界を本気で生きる

絵本を読むってどういうことなのかなあということ学んだ例を、もう一つだけお話しします。それは、アメリカの絵本作家のエリック・カールという人の「パパお月さまとって」という本なんです。この絵本は長期療養している子どもたちに人気です。重い病気でベッドに拘束されている子どもたちにとって、見える自分の外の世界はほとんど窓で仕切られた世界。だから風の音だったり、木々の色が変わったり、そして見えるのはやっぱりお月さまなんですね。このお月さまの話をしましたらね、大好きになった。そして後からリクエストするんですね。あの本また読んで。

ですが意外と本のタイトルを覚えてないんですね。たいてい「ウソつかないお父さん」の本と。子どもにとってはウソの世界を本気で生きるというのが絵本を読む時の一番大事なことです。ウソの世界を本気で生きる者を見ることによって、今の現実がどんなにつらくても、物語の中で本気に生きる時間の方が、現実で自分が生きる時間より長く大きく生きることができましょう。そこがどれだけ描かれているかが大事なのです。

子どもは、もっと遠くまで、本当に届かなかったらもっと遠くまでの梯子を持ってくるお父さんが感じられる、子どもはそれを「ウソをつかない」と言います。私たちがウソをつかないということ、ちょっと違うんだと。

子どもはウソの世界を本気で生きる力を持っているんだなあ。それがあり得ないという話でも、絵本の中でもう一人の自分を毎回生きなおしているんだなあ。そうすると、絵本の世界というのは、読んでみると途中で辛いことや危機は訪れるんだけど、やっぱり絶望というのは無いんですね。最後まで生きてみるもんだ、という強い希望のメッセージがあるんです。それが大事なんじゃないかなあと思っています。

刑務所での試み

私は法務省の新しい試みということで、山口県の女性の受刑者がおられる、美弥という刑務所で、その中のお子さんがおられるかたたちと一緒に、この絵本の読み合いというのを、矯正教育の一つとして、「絆プログラム」という名前で、去年から始めています。

多くの女性受刑者の方たちは、本当の意味で、自分が何者かを見つめた後で、今度は社会とつながって行こうとする時、頭で学ぶだけでは、どうしても次の自分の具体的な前向きに生きようということに繋がらない。そこで絵本の読み合いはどうだろうかと去年から始まったんです。



6人で一つのグループを作り、1回90分で、6回のプログラムが1クールになっています。自分が残してきた子どものために、絵本を読む自分の声を最終的に録音して、自分が刑務所内で労働して得たお金で、読んだ本を買い、その本とCDを子どもに届けるといふのです。

一番大切なことは自分には愛する力が残っていることに気付いてもらうプログラムです。最初に施設に行き、体操の時間があるのですが、その時に、指導の先生が「やさしく腕を撫でてあげて下さい」と言われると、「エッ」って分からない。してあげるといふ言葉が生活の中に無い。「あげる」が分からない。でも、どうして自分でいとおしんでいいか分からない。だから自分を愛するということを知っていただければいいなと思って始めました。

わたしはここよ

自分の言葉で絵本を読むという中で、忘れられない幾つかのお話をしたいと思います。200冊くらいの中から、Aさんが選んだのは「ちいさな木」という絵本でした。字が少ないからという理由だけで選んだそうです。

Aさんはまだ子供は小さいのですが、自分にとても自信が無く、詐欺罪で入ってここ美祢の刑務所だった。「刑務所ですよ」と言えない、「ここ」が言えない、だからやっぱりこの本は読めないって言ったんです。

で、この時に仲間の残りの5人が「ここ」はみんなにとっても言えないことだから読んでみたんです。「ここよ、私がお母さんですよ」と声に出す、それは、代えられない一本だよ。みんなが読む声を聞いた時に、Aさんは自分の子どもの木に向かって、「ここよ」と言えるのは私しかない気がついたんです。

Aさんはずっと練習して、精一杯の声でこの木にはこの母さんしかないみんなに分かる読みができました。

みんな頷き、この仲間たちというの人の気持ちを察するのはすごいんです。絵本を読むってことは自分の本当の声を探さず仕事できたということなんですね。Aさんの仕事できた時に、みんなが「あったね、木ができたね」と言いました。すごく大事な出来事になりました。これがAさんとの出会いでした。

ぎゅっと引き寄せる

次は「きんのみごにちゃん」という楽しい本です。これを選んだBさんは、強い感じの人で、湿っぽくない感じというので選んだと思うんです。ところが読み始めたら、突然止まってしまいました。

私は結構軽いタッチで読んで、彼女もさっさと読もうと思ってこれを選んだ。ところがね、読み始めて軽快に読んでいたんですが、途中で突然彼女が止まって「分からない」と。「お父さんもお母さんも泣きながらおにちゃんをぎゅ？ぎゅ？ぎゅ？」と言う「ぎゅ？」が分からん」と言いました。「ごめんね、ごめんね」は読めるんですが、「ぎゅ？」が読めない。読めないというのが伝えられるというのは良いことなんです。

それで、彼女が仲間たちに伝えたのを聞いてみると「自分は覚えいじをしていたので、している時に子どもが抱っこして来たりすると、必ずふすまを閉めていました。それは、ごめんと言いながら、自分の体も心も汚れているような気がして、子どもまで汚れてしまうような気がしたので、子供だけは汚したくなかったんで、はねつけました」。「だから、私はごめんって思っていました」。

彼女は自分の方に「ごめん」と言いながら引き寄せる初めての体験だったんです。「ぎゅ？」が自分に沿わなかったから読

めなかったんです。みんながうんと頷きながら待っていたら、何度も「ぎゅ？」をやっていました。

やっぱり彼女はこの本から、新しい自分の子供との関係づくりから逃げなかったんだと思います。最後の録音の時、この本の「ぎゅ？」を読みました。感じたのは、見えないお子さんに向かって、始めて両手で引き寄せて、抱きしめている声それが読んだんだ、抱っこしたんだと分かりました。

この体験以降、彼女はそれまで反省したことが背を向けることだったのから、一つ前を向けたり、人に近づくことで自分の痛さとか、向き合うことを始めて覚えて、いろんな矯正教育の中の身体が変わったと刑務官の方から聞きました。

自分自身を世間だと感じる

もう一冊「こすずめの冒険」。これをCさんはね、きれいな声で読み始めたんですけど、最初のカラスのところで「じゃあ中に入れることはできないな、おまえは俺の仲間じゃないからな」と言うところで。ずーっと考え込んでしまう読みだったんです。ものすごく時間がかかったんですね、一冊読むのに。

彼女は「自分の声を出して読んでいたら、どうしてもこのこすずめは私のせいではぐれてしまったひな鳥にしか見えなくて、そうしたら、世間の人とは違ふって話はないでいてもらいたい。せめてうちの子をはねつけなくて欲しいと、知らない間に祈りみたいになってしまった」。

そうしか読めないと言ったら、またそれをみんなが引き受けたんです。世間の冷たさではなくて、何か一所懸命悩んでくれる、周りの人の物語に変わってしまったんです。中の人「いっちゃ、私らが世間になつたげるけえ」。世間というのは自分の向こう側にある、敵対するものではなくて、私自身が世間なのだという風を感じる。私が社会なのだを感じる体験というのは、教育の中では少ないんです。社会が向こうにあるじゃない。私が社会なんだということを刑務所の中で学んでいく機会というのは無いんですね、それを声に出すことで知っていくんだ、ということ私たちも初めて教わりました。彼女は最後まで、子どもをはねつけない周りの人たちと自分の関係で、その物語を読み終えるということになりました。これがCさんの物語でした。

誰かのためにと思った時に、自分を置いてそして自分の中で眠っているものと自分が向き合った時に、自分の中に芽生えて、愛している心、愛せる心そして経験の多い少ないはあるけれど、やっぱり愛された記憶を支えにして向かっていく。そういう風に人はできていくのかなあと思わせてもらう今のプログラムです。改めて、本を読むということは上手に読むことではない。子どもが確かに聞いた時、Aさんの声で見える世界を受け止め、Bさんの世界を受け止めていくんだなあ、ということも逆に分かってきました。

物語を迎える隙間

お年寄りともずーっと本を読んでいきます。あるとき特養でね、どんなプログラムにも参加しないというお祖父ちゃんがおられたんです。

何を思ったか私いきなり「満州娘」を歌い始めたんです。わたしが止まったら隅っこに座っておられたおじいちゃんが「戦争の時の歌なら知ってます」。彼は立ち上がられて、深く息を3回くらい吸われて目を閉じられて、それから歌われたんです。「長く紡いで、げた履いて、もんべを着たならお嫁入り、ワンさん待っててちょうだいね」と歌われて、「私はまだ子供だったの、それがどんなひどい歌か満州の娘さんにとって屈辱的な歌だったのかを、なにも思わずに歌っていました。大変に申し訳ないことでした」と言われて深々とお辞儀をなさったんですね。

そのお辞儀を見た時に、ずーっと抱えてこられた何年もの長い年月の中の物語が、その時歌声となって今開かれたんだなあということを知りました。

違う華やかな満州の娘さんの、お母さんと縫物をしながらお嫁に行く日を待っているのを、当時傀儡政権だったのを、日本から行った子どもたちは長靴を履いて下駄を履いてもんべを着て日本人みたいな格好をさせてという歌に変わっていた。それを申し訳ないことだった、と言う風におっしゃったんですね。なんか歌の中にも、物語を迎える隙間があって、そこに自分の物語が開かれていった時に、違うものが見えてくるんだなあと思って、みんなで初めて聞いた物語でした。その後、その歌ってくださった方が、施設の人に、楽しかったと言われた。心が弾む楽しかったではなく、たぶんその方独特の言い方で、自分の閉ざされたものに何か風が吹いたんだなあ、ということを感じました。私はたまたま絵本の仕事をしていますが、日常の何気ないところにも物語があるんだなあということをお伝えしたかったということです。

(要旨 文責広報部)

自殺関連件数が7%台に！ 10代～50代女性の増加

電話相談
統計

2011年
1月～6月

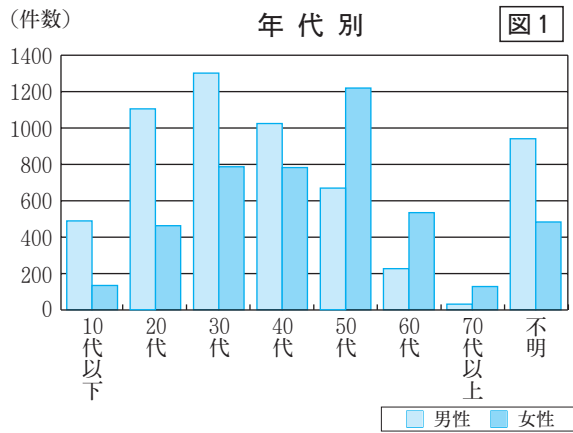
総受信件数 10,644件 (うち男性6,038件、女性4,606件)

自殺関連件数 793件 (対受信率 7.45%)

(数値は全て統計部による)

1. 50代女性の増加

全体件数は、前年同期に比べ300件以上増加していました。年代別では30代男性、50代女性、20代男性、40代男性になりました。(図1)



前年までは、30代男性の次は20代男性でしたが、今回は50代女性が2位になりました。50代女性は全年代の中で最も増加傾向で200件以上の増加でした。また、30代女性も200件近く増えていました。

40代男性を除き10代から50代まで、男女ともに増加していました。男性は40代、60代、70代以降は減少していました。

男女を合わせると30代40代50代はそれぞれ2,000件前後で、この働き盛りの年代が最も多い傾向でした。

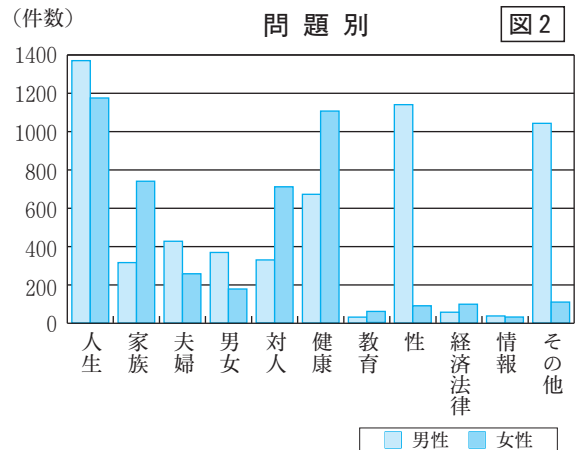
そして女性件数が多くなっているのが近年の特徴です。前年に比べ女性全体では600件近くの増加で、特に50代女性の増加は著しいものがあります。男性と女性の比率はかつては圧倒的に男性件数が多く、女性は男性の約半数でしたが、女性件数が増加し今回女性件数は全体の約44%になっていました。

男性は身近に相談したり話したりする人がいないから電話相談するということが考えられ、女性はこれまで近い人とおしゃべりをして解消しているから電話件数が少ないと考えられてきました。しかし、この統計からは女性も安心して話せる人がいなくなったのではないかと懸念されました。

2. 女性の健康問題の増加

問題別では、男性の人生問題が最も多く、女性と合わせると2,500件を越える件数となりました。(図2)しかし、前年に比べ男性件数が200件ほど減少傾向でした。女性はわずかに増加していました。

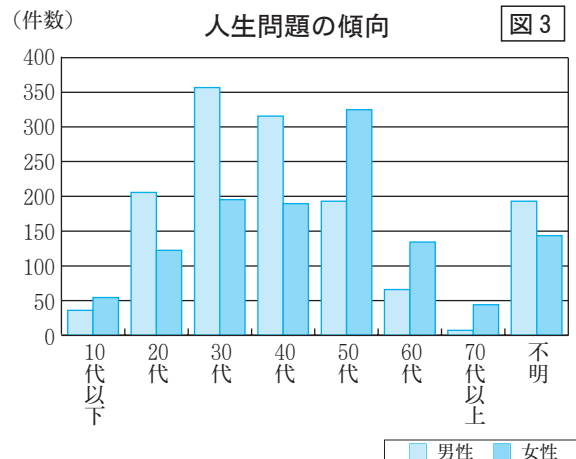
次いで多い健康問題では女性が400件以上増加し、最も増加した問題となりました。健康問題はかつては男女



差があまり見られませんでした。女性件数の増加が近年の特徴となりました。女性は健康問題と人生問題の差が少なく、お金と健康のともども悩む姿が浮かびました。家族問題は男女ともに増加し、男女それぞれ100件以上増加していました。かつては男性は家族問題の件数は少なかったのですが、男女差はあるものの男性も悩むようになったと考えられました。

3. 多い人生問題の30代から50代

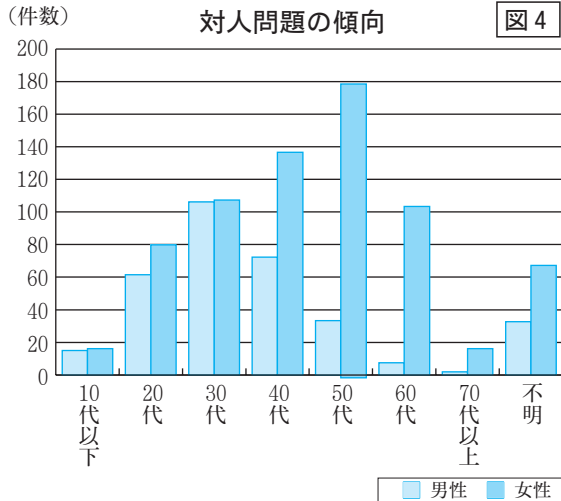
人生問題で最も多いのが30代男性、次いで50代女性、そして40代男性の順になりました。(図3)男女合わせれば30代から50代までそれぞれ約500から550件と、大差のない件数でした。この年代は働き盛りであり、多くは仕事も家庭もある状況であると思われます。男性が多い年代は女性が少なく、50代のように女性が多いと男性が少ない件数でした。家族であれば、どちらかが悩むのでしょうか。女性の50代も多さは、家族全体のことも含めたお金のことでしょうか。いずれにしても、働き



盛りの年代が人生問題が最も多いことが気になります。

4. 対人問題の男性の増加

対人問題について女性件数は男性件数の倍ありました。(図4) これまでは3倍のこともありましたが、今回は男女比がやや近づき、男性が約100件増加し、女性は約50件減少していました。



50代女性が群を抜いて多く、家族、親族、近隣、職場など多くの場を抱えているからではないかと推察されました。

30代では男女差がほとんどないことが今回特徴的でした。対人問題についてこれまで男性は他言することが少なく、特に中年世代になるにつれその傾向が考えられましたが、若い世代では男性もその悩みを語るようになってきたのでしょうか。対人問題は話してみると、意外な気づきがあります。40代50代男性もこれからは、悩みを抱え込まず相談してほしいものです。

5. 健康問題は女性件数が増加

健康問題を図にしました。(図5) 健康問題はかつては男女差はほとんどありませんでした。今回、男性は100件近く減少し、女性は400件以上増加していました。女性は健康問題の60%以上を占めます。

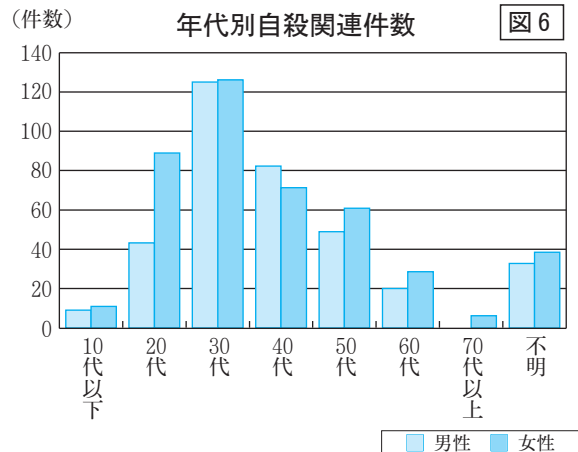


50代女性件数が最も多く、次いで30代女性、そして30代男性と40代女性が同数となりました。前は30代男性が多い傾向でした。女性の増加が著しいことが今回特徴的でした。

健康問題についても対人問題と同様、20代30代は男女差が少ない傾向でした。50代の男女差は大きく、健康のことについて女性は夫を始めとする家族に話せないから相談してこられるのでしょうか。独りで悩む50代女性が考えられました。

6. 自殺関連の30代の増加

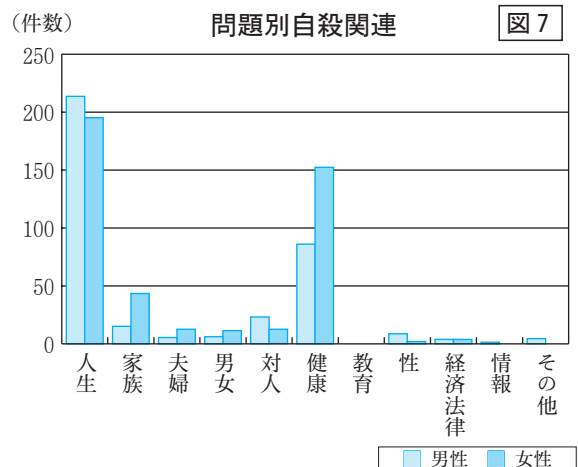
自殺関連件数は前年同期より増加し、全体で800件近くありました。年代別で、30代の男性と女性がほぼ同数で最も多い結果でした。(図6) 女性件数が多くなり、全体で100件以上の増加でした。



30代に次いで20代女性が多く、40代男性40代女性となっていました。男女とも30代40代が増加傾向でした。20代では男性は減少傾向でしたが、女性件数は増加していました。

前年と同様30代の増加は止まず、ますます増えていきました。この年代の生き難さは、効率第一、成果主義、不景気など、今の時代を反映したものでしょうか。

問題別で見るとこれまで同様、人生問題が多く男女差は多くはありません。(図7) 男女とも生きることの難しさを考えさせられます。健康問題は女性が多い結果となりました。



自殺関連件数の割合は7.45%。かつてない多さです。3月には想像すらしなかった震災と原発事故がありました。このような中ですが、少しでも明るさを見つけていきたいと思います。岡山いのちの電話は自殺予防ダイヤルとして一層努力して務めを果たして参ります。

(文責 編集委員)

▶ 電話がつながるのを待っている方がおられます
あなたも相談員として仲間に加わっていただけませんか

第29期 相談員募集要項

募集人員	40名程度
応募資格	原則として23歳～63歳位までの男女で、いのちの電話の趣旨に賛同し、活動に積極的に参加できる方。特に深夜帯、日曜日に活動できる方を歓迎します。
受講費用	50,000円（1泊2日の宿泊研修を2回分含まます）
受講期間	2012年4月7日(土)～2013年3月7日(木) 予定 おおむね月3回 木曜日 18:30～20:30
申込手続き	1. 決められた申込用紙 2. 「受講動機」と題する作文（400字詰原稿用紙2枚） 3. 「私の生き立ちと今の自分」と題する作文（400字詰原稿用紙5枚） 4. 申込料1,000円（切手可、100円以下の切手をお願いします）
募集期間	2012年2月～3月3日(土)
面接日	2012年3月10日(土)午後予定 場所は別途お知らせします。 (申し込まれた方は面接を受けていただきます。場合によっては受講をお断りする場合がありますのでお含みおきください。)
ホームページ	http://okayama-inochi.jp

お問合せ

岡山いのちの電話協会事務局（申込先も同じ）

〒700-0972 岡山市北区上中野 1-3-5 TEL 086-245-4344（月～金10時～17時）

第29期 養成講座の内容ならびに開催日

曜日と時間 木曜日 18:30～20:30

No.	開催日	講義内容
1	4月7日(土)13:30～	開講式 いのちの電話とそのボランティアについて
2	4月12日(木)	カウンセリングのこころと方法
3	4月19日(木)	人間関係づくり（グループワーク）
4	5月10日(木)	電話相談のこころ
5	5月19～20日(土・日)	人間関係体験学習（1）（宿泊研修）
6	5月24日(木)	フォローアップ研修
7	5月31日(木)	病める心の理解と援助（精神障害）
8	6月7日(木)	病める心の理解と援助（神経症水準）
9	6月14日(木)	人の心の発達
10	6月28日(木)	女性のこころのケア
11	7月12日(木)	自分を見つめるー内観療法ー
12	7月19日(木)	PTSD（心的外傷後ストレス障害）適応障害
13	7月28～29日(土・日)	人間関係体験学習（2）（宿泊研修）
14	8月2日(木)	電話相談の方法（1）積極的傾聴の意義と技法
15	8月16日(木)	電話相談の方法（2）質問・助言・情報提供
16	8月23日(木)	ショートカウンセリング（1）
17	9月6日(木)	ショートカウンセリング（2）
18	9月13日(木)	ショートカウンセリング（3）
19	9月20日(木)	ショートカウンセリング（4）
20	9月27日(木)	ショートカウンセリング（5）まとめ
21	10月4日(木)	青少年の理解と対応
22	10月11日(木)	家族関係論ー家族療法からー
23	10月18日(木)	自殺の心理と介入
24	11月1日(木)	頻回通話者について
25	11月15日(木)	性の問題と電話相談
26	11月22日(木)	電話相談員の危機
27	12月6日(木)	相談員と語る（電話相談のスピリット）
28	12月13日(木)	社会資源とその情報提供の仕方
29	12月20日(木)	実地訓練に入るに当たって（見学・先輩と語る）
30	2013年1月～3月	実地訓練
31	1月24日(木)	ケース研究（1）
32	2月14日(木)	ケース研究（2）
33	3月7日(木)	相談員と語る（グループ討議・閉講式）
34	6月20日(木)	認定後フォローアップ研修

会場：岡山いのちの電話研修室（宗忠神社の駐車場をお借りしています。要・駐車証）
 但し、5月、7月に行う宿泊研修の人間関係体験学習（1）（2）は
 岡山いこの村 瀬戸内市邑久町虫明大平山5652-11 で行います。
 上記のほか、全体研修が年に数回行われます。これらはその都度ご案内いたします。

第25回

中国四国いのちの電話 合同研修会島根大会

- 2011年10月15日(土)～16日(日)
- 松江テルサ・いきいきプラザ島根
- 担当センター：社会福祉法人島根いのちの電話

島根相談員の皆さまの細やかなおもてなしを受けて、神有月の雨上がり、神有国で研修会が始まりました。徳永進先生の講演ではおなかを抱えて笑ったり、しみりしたり、徳永ワールドに会場は温かく包まれました。

相対するものこそ信じられる。純粹と不純。生と死。痛みを感じる意識のある状態と痛みも意識もない状態。何が善で何が悪か？世の中は常に両極端が隣り合わせ。同じ人に対して「生きて欲しい」と願う心と、「今なら家族で看取れる、死ぬなら今」と思う心。

脳出血で倒れた父、どんな姿でも生きて欲しいと祈ったはずなのに、帰宅させ自傷行為に及び、皆に抑えつけられている父をただ見ている私。生き延びて父は幸せなのか？私の中にも両極の思いが戦っている。麻痺した左手の握力確認の為、別れ際

左手で握手をする。今度は父の手の平に丸を描こう。

一方、分科会では釜瀬春隆先生より「精神科に通院している相談者への対応」の研修を受けました。治療中の相談者が多く、申告は少なくとも呂律が回らない人も多い。夜中長時間話が長く時、担当医とうまくいってないのか？家族はいないのか？と考える。忙しい中医師や職員の皆さんは電話の相談にも丁寧に対応しておられ、その謙虚で穏やかなお人柄が、患者さんに安心感を与えるのであろう。

相談員の抱える問題は、日本海側も太平洋側も変わることなく、離れていても多くの同志がいることは心強い限りである。懇親会では地元のおいしい料理が並び「きんにゃもにゃ」の踊りで会場は一つになり、次回開催地高知での再会を誓った。

島根は穏やかで温かく懐かしい町でした。

だんだん
だんだん。(I)



第2次 震災フリーダイヤル受信

3/28～4/9実施の「第1次震災ダイヤル」に続き、9/11より「第2次震災ダイヤル」に参加しました。被災4県からの限定フリーダイヤルですが、電話をかけられる環境もまだ充分ではないでしょう、ポツポツと間を置いてつながる電話に、精一杯の想像力を働かせながら聴かせていただいています。

被災から回復されない苦しさや辛さのみならず、『被災地』『被災者』と名付けられ、処理されていく理不尽さを訴えられる言葉に、返す言葉もなくひたすら頷くしかありません。

心身の病気を抱えておられる方からの電話も割合とすれは多いのですが、健康な方でさえ、「この地を離れたい、しかし離れられない」「生きろ、いや生きるな、と心の中で二つの声が聞こえている」「みんなこの危機から逃れたいが、死ねば楽になるけど、死ねないから生きているんだ」との葛藤の中におられる。しかし「ボランティアに来た人となにも言わずに抱き合っ泣いた」「忘れていた東北人の心を自分の中に確認するために電話しました」とも。

距離のある岡山に居ながらではありますが、心は近くに寄せ、祈り心を持って耳を傾け続けたいと思います。(K)

事務局日誌

- 6月16日 講師派遣 竜之口愛育委員会講演会(講師中野)
- 7月1日 青少年問題を考え、行動する100人委員会(宇野)
- 7月8日 おかやま被害者支援ネットワーク総会(草苺)
- 7月10日 自殺予防フリーダイヤル 朝8時～翌朝8時
- 7月12日 岡山子ども・若者サポートネット実務者会議(宇野)
- 7月14日～115日
日本いのちの電話連盟事務局長会議(草苺)
- 7月17日 フリーダイヤル研修会①(講師太田)
- 7月27日 犯罪被害者等支援県民のつどい(草苺)
- 7月28日 電話相談室吸音工事
- 7月29日 青少年相談機関連携強化連絡会議・交流研究会(佐野)
- 8月10日 自殺予防フリーダイヤル 朝8時～翌朝8時
- 8月17日 講師派遣 中区健康市民おかやま21研修会(宇野)
- 8月22日 岡山市法人監査
- 8月28日 岡山いのちの電話市民公開講座「こころの力」(講師 黒木賢一)
- 9月8日 倉敷ロータリークラブテレビ贈呈式
- 9月9日 自殺予防デー・ティッシュ配り(3名参加)
- 9月10日 自殺予防フリーダイヤル 朝8時～翌朝8時
- 9月11日 倉敷ロータリークラブ協賛
市民公開講座「こころの力」(講師黒田)
- 9月17日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 9月20日 フリーダイヤル研修会②(講師加藤)
- 9月24日 スーパーバイザー研修会「東日本大震災の援助活動に参加して」(講師堀井)
- 9月25日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 10月1日 共同募金オープニングセレモニー・街頭募金(4名参加)

- 10月1日～3日
いのちの電話全国研修会・北九州大会(3名参加)
- 10月2日 岡山いのちの電話市民公開講座「こころの力」(講師 村中李衣)
- 10月3日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 10月10日 自殺予防フリーダイヤル 朝8時～翌朝8時
- 10月12日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 10月15日～16日
いのちの電話中国・四国合同研修会・島根大会(7名参加)
- 10月20日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 10月23日 岡山いのちの電話市民公開講座「こころの力」(講師 堀井)
- 10月23日 講師派遣 東区健康市民おかやま21健康教室(講師宇野)
- 10月24日 岡山県自殺対策連絡協議会(草苺)
- 10月28日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 10月28日 講師派遣 金光町老人大学講座(宇野)
- 11月5日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 11月10日 自殺予防フリーダイヤル 朝8時～翌朝8時
- 11月14日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 11月14日 青少年健全育成講演会 100人委員会主催(草苺)
- 11月22日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 11月22日 青少年関係相談機関・NPO・ボランティア団体等研修会(宇野)
- 11月22日 岡山子ども・若者サポートネット第2回実務者会議(宇野)
- 11月27日 第25回岡山自殺予防シンポジウム「希望」
- 11月30日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 12月2日 全国研修担当者セミナー(草苺)
- 12月8日 震災フリーダイヤル 13時～20時
- 12月10日 自殺予防フリーダイヤル 朝8時～翌朝8時

資金ボランティア大募集

あなたも、あなたのお知り合いも、職場の方も、職場も資金ボランティアになって支えて下さい

維持会員

個人 年額 A 2,000円 B 3,000円 C 5,000円 D 10,000円 以上
 団体 一口 10,000円 何口でも

賛助会員

折々に自由な金額でご寄付下さる方。
 お誕生、お香典返しなど折々に頂きますと幸いです。

社会福祉法人岡山いのちの電話へのご寄付は所得税法第78条第2項第3号及び
 法人税法第37条第3項第2号に該当します。
 法人は損金算入、個人は2,000円以上が控除の対象になります。

お振込先

郵便振替 01260-4-15857 岡山いのちの電話
 銀行振込 社会福祉法人岡山いのちの電話 理事 堀井茂男
 中国銀行大元支店 普通預金 1223257

初めて銀行から寄付金を振り込まれる方は、ご住所をお知らせください。
 領収書をお送りします。



2011年9月8日倉敷東ロータリー
 クラブより遠藤堯之会長他ご来局、
 デジタルテレビ、BDプレーヤーを
 ご寄贈いただきました。



市民公開講座にもご協賛いただき、
 初の倉敷開催が実現しました。
 (9月11日倉敷商工会館、
 講師：黒田重利先生)



2011年6月4日国際ソロプチミ
 スト岡山さつきより澤田たつみ会長
 他ご来局にて、総会前に寄付贈呈式
 がありました。

第29回 いのちの電話相談員 全国研修会 北九州大会に参加して

10月1日～3日の3日間北九州市小倉の北九州芸術劇場他
 4会場で「～つながれ いのち・未来の発見～」をテーマに全
 国研修会が開催された。

1日目の基調講演はきたやまおさむ氏の「あの素晴らしい愛
 について」でした。氏は1965年に医大に入学した時にザ・フォ
 ク・クルセガーズを結成し一世を風靡したことはご存知の方が
 多いと思います。大学教授（精神科医）と活躍され、現在は
 「北山精神分析室」を主宰されています。

この講演で氏の研究の中で、浮世絵に描かれた「母子像」が
 非常に役立ったと言われました。同じ対象を共に眺める母子像
 が頻りに登場し、必ず母親と子どもがしっかりと抱え合ってい
 る。つまり、表の外的対象を介した二者間「外」交流と、その
 裏の直接的な二者間「内」交流という二重の交流が展開してい
 ることになる。浮世絵は「裏のつながり」「横のつながり」描い
 ている。現代に「つながり」が欠けているから悲劇がおこるので
 ある。と話されて、ものすごく感銘を受けました。

特に母親の子供にそそぐ愛の復活が今の殺伐とした世の中の
 特効薬（時間はかかるが）であるように感じました。

2日目の午前は「思春期の生きづらさを考える（摂食障害/
 リストカット/不登校）」、午後は「発達の違いを持つ人への関
 わりをめぐって」に参加しました。

午前の楠先生は学生の具体的な体験レポートを紹介しながら
 のお話で、印象に残ったのが「リストカットは死ぬためにやるん
 じゃなくて、自分が生きていることを確認するためにやるんだ。
 自分で自分を確認しないと誰も気づいてくれないじゃないかと思っ
 て」と妹が姉に言ったことでした。

午後の窪田先生は海外ドラマの「名探偵モンク」の主人公を
 例に発達障害を解りやすく話され、私の身の回りをみてもそれ
 なの人がいることに気付かされました。そして、正しい理解と
 支援の方法を共に考えたいと話されました。

3日目は仕事の関係で参加できませんでしたが大変有意義な
 2日間でした。来年は札幌での開催です。何か発見があると思
 います。

北九州センターの皆様には本当に心憎いほどのもてなしをし
 ていただきありがとうございました。

(S)

フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」

来年も継続して取り組みます。覚えていてください。
 あなたが辛いとき、近くにいます。
 「自殺予防いのちの電話」です。

☎0120-738-556

「岡山いのちの電話」は講師派遣をします

学校、企業、団体などに「岡山いのちの電話」のスー
 パーバイザーが「こころの専門家」として参ります。
 詳しくは 事務局 (TEL 086-245-4344) まで
 お問い合わせ下さい

編 集 後 記

何かよいこと、嬉しいことがないかなと思っていました。で
 も、思いがけない災難があると、平凡なことを当然と思ってい
 た日々がなんと幸せだったのかと思います。いつものように朝
 が来て日はまた暮れ、ということは奇跡のようなことだったの
 かと。穏やかな冬の日差しに柿が赤く光るのを見ながら、また
 明日も変哲のない日であるようにと思います。

(S)

発行 社会福祉法人 岡山いのちの電話協会

発行者 堀井茂男

編集 岡山いのちの電話協会広報部

事務局 岡山市北区上中野1-3-5 TEL 086-245-4344

FAX 086-245-7743

URL <http://okayama-inochi.jp>